

次に、教官の研究成果の中には、テーマまたは分野によっては出版社が商業出版をするのが難しいと判断するものもあります。そうした研究成果の刊行を支援するのは、本来の学術研究の推進にとって極めて重要であります。こうして出版助成された研究の多くが学位論文になっていることはその証左であります。当後援会はその種の図書出版のほかにも、六甲台各研究科・各学部および研究所の出版している研究年報および欧文紀要のほか、「国民経済雑誌」（日本で最初の全国的な経済学・商学専門誌で明治三十九年創刊）や「神戸法學雑誌」の刊行助成などに計約一億三千四百七十七万円を支出してきています。

次に、重点的な支出が行われているのは、外国人研究員の招聘です。外国の優れた研究者を招聘して共同研究を進めたり、そういう人々の講演を学生諸君が聞く機会を持つことは、本学の教育・研究の推進にいかにも重要であるか、疑問の余地がありません。しかもこの外国人研究者の招聘のための支出が昭和五十八年以降急増していることは六甲台五部局の先生方の活動の活発化の動向を見るうえで

は注目に値すると考えられます。すなわち、外国人研究者の招聘が定例化し始めたのは、昭和四十六年からですが、五十七年までは、それでも年平均約三十八万円程度に過ぎなかったのに、昭和五十八年以降平成七年までは、年平均約四百十五万円に急増しています。これは、以前には、偶々外国からわが国にみえていた外国人研究者を、短期間神戸大学に招聘するといったケースも多かったことにもよりますので、単純な比較はできません。しかし、昭和の末期から十数年に亘っていかに活発化していたかを示す数字にはなりません。

ただここで、注目していただきたいのは、この外国人研究者の招聘が、あの大震災のあった平成七年の翌年から平成十五年までゼロになっていることです。これは、大震災の直後はともかくとして、何よりも六甲台後援会が毎年支出できる金額そのものが、バブル崩壊後の低金利政策などによって大幅に減額されたことによるものです。すなわち、昭和五十八年頃から毎年四千万円を超え、一時は五千三百万円を超える支出が可能であった収入が、従来の高金利債券の満期になった平成八

年以降は、半額以下の二千万円前後に落ち込んだからです。

そのため、平成八年頃からは、後でも一度ふれることになる学生諸君のための図書購入費や研究成果刊行費や外国人研究者招聘費や学会・学術講演会開催助費などを全額減らしてもうまく運営できないという状態になりました。もつとも、こうした財務状況は、多くの企業が運営しておられる各種財団法人にも共通に見られることです。ただ企業の場合、その財団運営のために毎年一定額の寄付金を拠出して補完するというのが一般的です。しかし、私たち六甲台後援会の場合は、そんなことも不可能です。そこで理事会としては、この苦境を克服するために、運用財産の中から毎年一千万円ぐらいを切り崩して事業運営に当てるしかないという慎重審議の結果腹を決っていました。幸い、資金運営委員会でもこの事態を克服するのに少しでも役立つために、いろいろと模索した結果、多くの学校法人や財団法人が利用している元金保障の仕組債を運用財産の一部を利用して購入することにしました。それによって若干の収入増を

図ることができませんが、しかし、やはり運用財産の切り崩しは欠かすことができません。そこで、この数年前から企業の場合のように巨額の補填をして頂くということが出来なくても、皆さんに母校の研究・教育活動強化のための募金をお願いしている次第であります。先ほども申しあげましたように、当後援会

では以上の他に、教員の皆さんの属しておられる学会の大会が本学で開催されるときに、設けられたか、学術講演会の開催援助などにも、設立以来二千五百十三万円、学生諸君のための図書館での図書購入費に四千七百九十万円、また、南米研究奨励のため、この分野の研究をしている学生諸君への奨学金として、二百七十三名の諸君に計千二百二十一万円をお渡ししてきました。さらに、大学の諸施設、たとえば弓道場とか、付属図書館などいろいろな建物の増築や補修などについてまで援助し、その総額はこれまでに約五千五百五十六万円にもなっています。

皆さんには、今迄十分にご報告していませんが、六甲台後援会の以上の活動に対してご理解を頂き、これからは国立大学法人化という

こともあり、独自の資金活動をしなければならなくなった母校の発展のために金額の多寡に拘らずお気持ちをお寄せ下さいませようお願い申し上げます。前号で紹介させて頂いた皆さんに続いて、その後左記の方々それぞれご寄付下さいましたので、ご報告申し上げます。ありがとうございました。

一、三木谷良一氏（昭和二十八年旧制卒）

百万円

二、山邑 陽一氏（昭和三十四年卒） 十万円

三、立脇 和夫氏（昭和三十四年卒） 十万円

前号も申しあげましたように、当財団は、

特定公益増進法人として文科省から認可を受けていますので、税法上の特別措置を受けられます。ご送金は郵便払込票（本誌折り込み）または左記のところへお願い申し上げます。

なお、銀行ご送金の場合は、お電話でご一報頂ければ幸いに存じます。

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金口座四〇六九四九六

口座名義 財神戸大学六甲台後援会

（財神戸大学六甲台後援会事務局

電話（〇七八）八六一一三〇一三）

六甲台だより



六甲台だより

◇『凌霄』第三六五号の「六甲台だより」、本号の「学園の窓」（久保広正教授）にありますように、「EUIインスティテュート・イン・ジャパン関西」が本年四月に設立され、半年間の準備活動を終え、十月一日から本格的な教育、学術交流、広報普及活動を開始しました。これに合わせて、九月三十日にオープン・セレモニーが、十月一日（土）〜十月五日（水）の間、「神戸大学EUIウィーク2005」が開催されました。本件について詳しくは、神戸大学ホームページをご覧ください。

◇経営学研究科

経営学部夜間主コースの募集が平成十八年度入試より停止されます。ただし、この計画は、最終的には平成十八年度政府予算の成立によって確定するものです。